

都市構造可視化を活用した 大間々地区の分析



みどり市観光課

1. みどり市について

みどり市には3つの地域

■ 平成18年3月に2町1村が合併して誕生



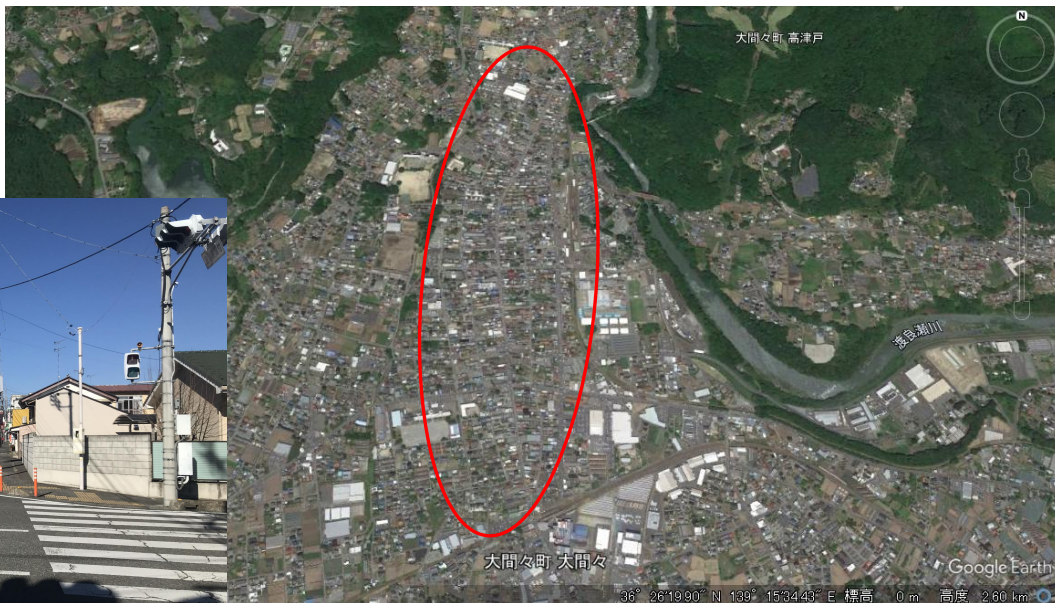
■ 各地域の特色

東町：山林
大間々町：歴史あるまちなみ（商店街）
笠懸町：住宅用地が増加中

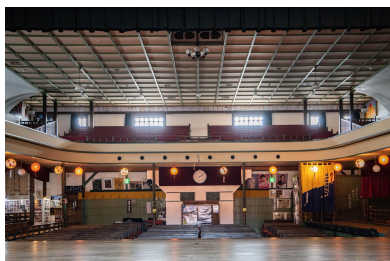


2.大間々地区について

大間々地区



補注：Google Earth を使用



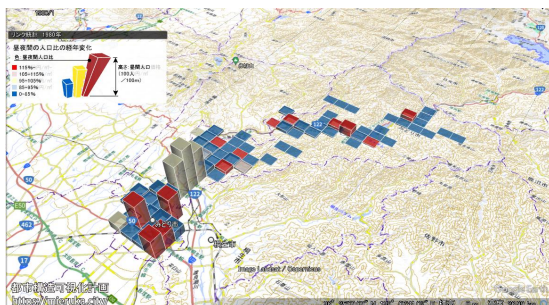
ながめ余興場

商店街の様子

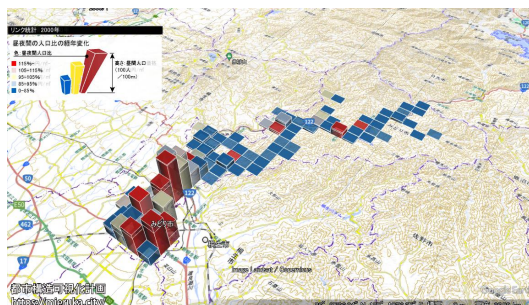
- 人口:約17,000人 (市全体:約49,000人)
 - 空き家・空き店舗、空き地が点在
 - 大間々エリア
- ⇒リノベーションまちづくり事業が始動

3. データの活用

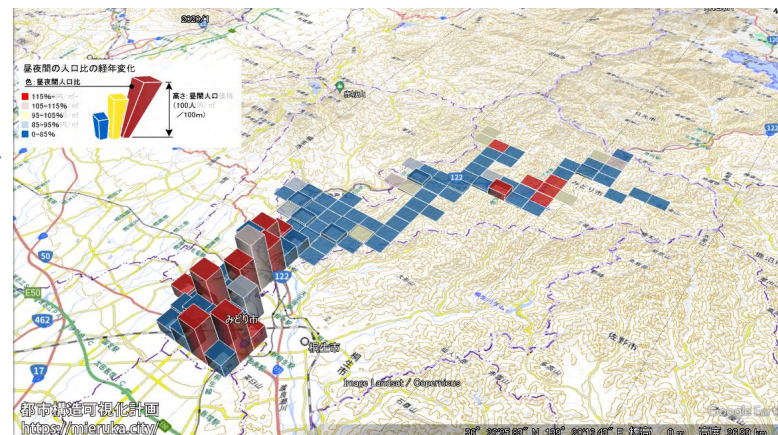
昼夜間人口比



1980年



2000年



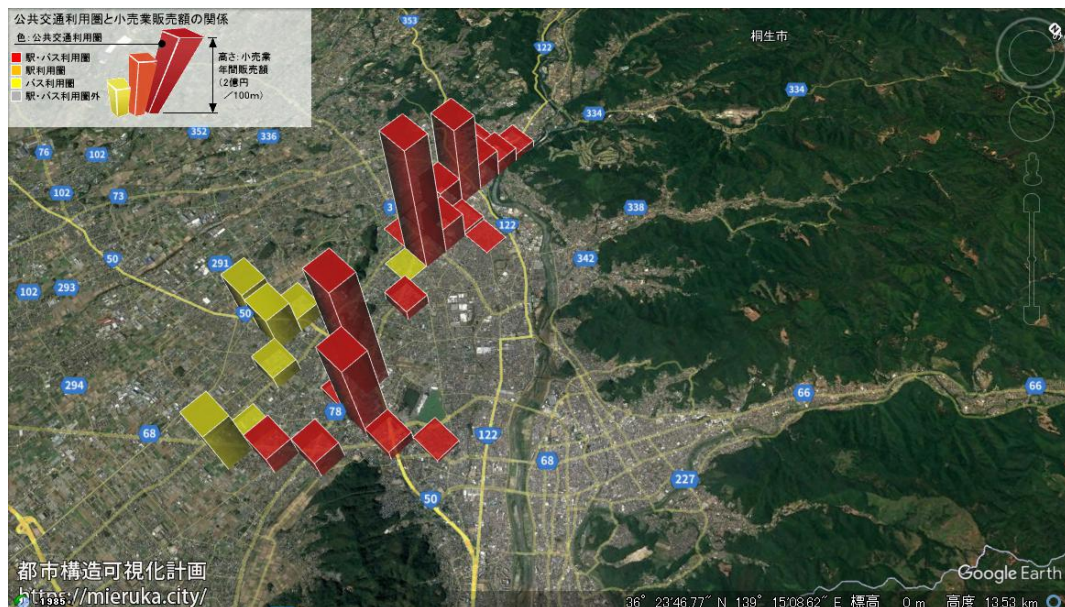
2020年

- ※バーの高さ：人口、色：分布
- 赤色→昼間の人口が多いエリア（職）
 - 青色→夜間の人口が多いエリア（住）
 - 職住のバランス

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

4. データの活用

公共交通利用圏と小売業販売額の関係

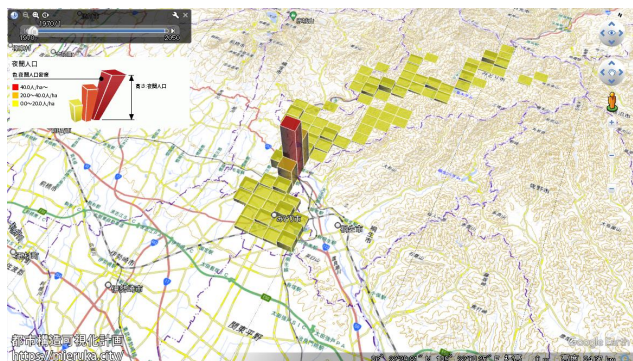


補注：都市構造可視化計画、Google Earth を使用

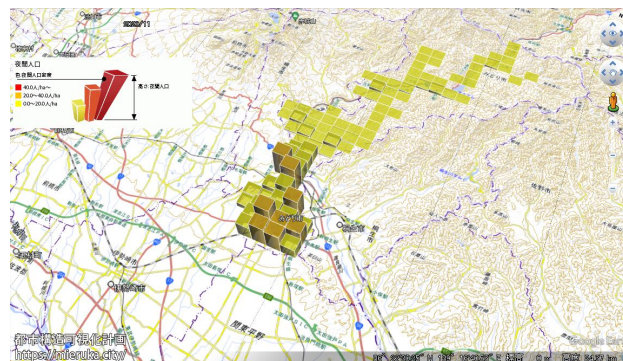
- 大間々地区：大間々駅（わたらせ渓谷鉄道）、赤城駅（東武鉄道・上毛電鉄）
 - 笠懸地区：岩宿駅（JR両毛線）、阿左美駅（東武鉄道）
 - デマンドバス（大間々地区・笠懸地区全域）
- ⇒ 駅・バス利用圏（赤色）に目立つ結果多い

5.データの活用

人口分布の経年変化



1970年



2020年

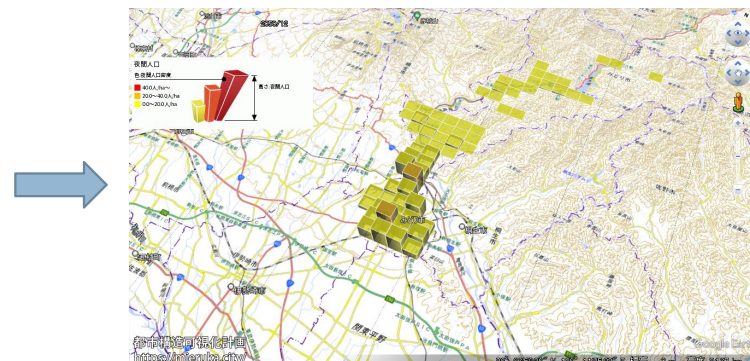
■ 大間々地区の推移

【1970～2020年】

まちなかに密集していた人口が
周辺の住宅街に分散。

【2020年～2050年】

緩やかな人口減少が続く見込み。

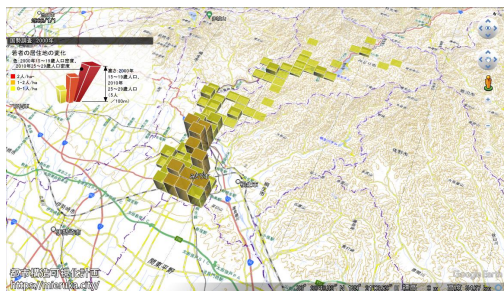


2050年

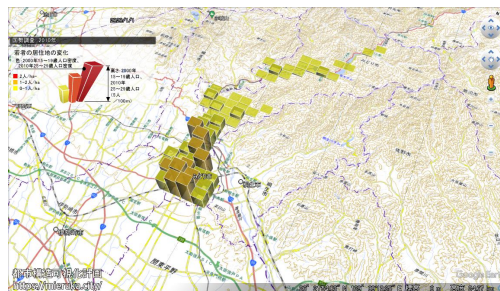
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

6. データの活用

まとめ



2000年

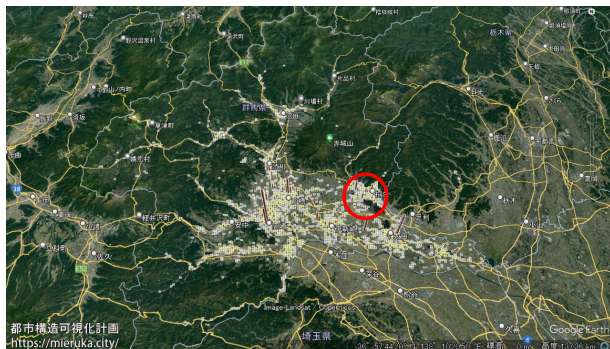


2020年

【若者の居住地の変化】

- 大間々地区、東地区 → 減少
- 笠懸地区 → 増加

補注：都市構造可視化計画、
地理院地図を使用



補注：都市構造可視化計画、Image
Landsat / Copernicus、Google Earth
を使用

【今後について】

- メッシュを細かくして大間々地区の解像度を上げたい（遊休不動産の情報などを視覚的に捉える）。
- 市内でも地区によってデータの傾向が違っていたため、近隣自治体も含めた広域的な視点でも分析する。
- まちなかのマッピング進め、得られたデータを可視化したい。
- 自分たちで収集した手持ちデータと都市構造可視化ウェブサイトで公開されているデータ両方を用いて、ミクロな視点でのクロス分析を行いたい。

